

学校法人 菊武学園
菊華高等学校

令和五年度 入学生選抜試験問題

国語

〈試験の注意〉

- 試験開始の合図があるまで開けないでください。
- 監督の先生の指示に従って、受験番号と氏名を記入、マークしてください。
- 試験時間は、四十分です。
- 解答は、すべて解答用紙にマークしてください。
- 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないようにしてください。
- 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。
- 破れた場合は交換しますので、申し出てください。
- 丁寧にマークをしてください。乱雑な場合、0点になります。
- 解答用紙の余白に書き込みをしてはいけません。

〈マークシート記入の注意〉

番号を記入	受験番号
番号をマーク	① ① ① ① ① ① ① ①

ふりがな	
氏名	

氏名とふりがなを記入

受験番号						氏名	
------	--	--	--	--	--	----	--

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人生の平常時に何が起きても逃げ込める精神のシエルター。それが「学び」の一つの側面です。

たとえば、美術愛好者なら、仕事でどんなストレスがあっても、美術に接すれば心に落ち着きを取り戻せます。「学び」はそんなふうに精神のシエルター的な働きもします。

安らぎや興奮が得られるのが、一般的な学びの世界です。これに加え、日常生活を送るうえでも思考の方法としてきちんと取り入れられていれば、学んだことによって頭が良くなったり、精神的に成熟したりするはずです。

本来人は学ぶことによって濃密に生きることができます。そうなれば、「いま、ここ」に存在していることの意味が、自ら確かな手応えとして感じられるはずです。

一般的に、学んでいる人は輝いて見えるもの。A、小学校の教室で一生懸命に学んでいる子どもがいれば、その教室や子どもは輝いて見えます。

B、ほとんどの生徒が学ぶ意欲を失って、だれもなかった中学校の教室などは、どう見ても輝いていません。C、同じ中学生でもクラブ活動の時間になって、たとえばブラスバンド部で一生懸命に練習しているときは輝いて見えます。

二〇〇一年にシンクロナイズドスイミングに挑む男子高校生たちの話が映画化されました。そんな話題が映画化されるのは、学んで新しい技術を身につけようと頑張っている人が輝いて見えるからです。

同様に、学ぶことがまだあると思っている人は輝いているもので、一流の人ほど「まだまだ学ぶことがある」と言います。そういう人は自分自身の輝きに気づいているはず。そして、自分に輝きをもたらすことを最期まで続けると、その人の一生はやはり気分の良いものになると思います。

自分自身を輝かせる原動力は、個人の持っている才能よりも、学んで

るというDなのです。

それを得ようと思ったら、基本的に自分に向いている物事に全力で取り組むこと。しかし、生まれつきの才能はなかなか増えないものですが、その点はあまり気にせず、何かを学ぼうと意欲的になることのほうが大切です。

「今日はこれを学んだ」というのもいい。そんな手応えが一つでもあれば、その一日が無駄ではなくなります。(①)

つけ加えると、学んだことで何をなすかは問題ではない。(②) ソクラテスだって大事業を起こしたわけではありません。(③) 誤解を恐れずに言えば、語り続けただけの人です。(④)

前に向かって自分の可能性を切り開く生き方をして、学んで新しい意味を獲得した喜びを祝福する。(⑤)

先日、こんなことがありました。私の母の八十歳の誕生日を家族と祝おうとレストランに行ったところ、その店は大変大勢の子どもで大混雑していたのです。

「どんな団体なんだろう？ちびっ子サッカーチームかな」などと不思議に思い、帰りがけに店員さんに尋ねると、「彼らは親のいない子どもたちで、二つの施設の子どもたちを年に一回招待しているのです」とのこと。

百人以上の子どもたちを対象にした無料の食べ放題を毎年の恒例行事にしているとは驚きでした。しかも、そうした善行を店内に誇示することなく淡々と行なっている。

その事実を知ったとき、私の中には「そんな経営者もいるんだ」という学びが生まれました。そして、「自分には何ができるのだろう？」などと考え始めました。

そうした学びが一つでもあると、その日は得した気分になれるもの。こんなふうに、素晴らしい物事に合って刺激を受けることも「学び」と言えると思います。

『人はなぜ学ばなければならないのか』 齋藤 孝

問1 傍線部(ア)「人は学ぶことによって濃密に生きることができず」の説明として適切なものを次から一つ選びなさい。

- (1) ① やすらぎや興奮を得られるばかりでなく、精神的に成熟することができる。
② 何か起きた時に、冷静に判断し対処することができる。
③ 喜怒哀楽がゆたかになり、充実した日常生活を送ることができる。
④ 平常時に何が起こっても逃げ込む場所を見つけることができる。
⑤ 非日常の世界に生きることが容易にできるようになる。

問2 空欄A、Cに入る言葉を次の各語群から一つずつ選びなさい。

- (2) A ①だから ②一方 ③しかし
④つまり ⑤たとえば
(3) B ①しかし ②たとえば ③一方
④だから ⑤つまり
(4) C ①つまり ②だから ③たとえば
④しかし ⑤一方

問3 傍線部(イ)「そういう人」とはどういう人のことですか。次から適当でないものを一つ選びなさい。

- (5) ① 自分の学んだことに満足している人
② まだ学ぶことがあると思っている人
③ 新しい技術を身につけようとしている人
④ 教室で一生涯懸命学んでいることも
⑤ クラブ活動で頑張っている中学生

問4 空欄Dに入る語として最もふさわしいものを、次から一つ選びなさい。

- (6) ① 満足感 ② 達成感 ③ 自己肯定感
④ 充実感 ⑤ 高揚感

問5 次の一文が入るべき箇所を、本文中の空欄①～⑤から一つ選びなさい。
学んだら、それ自体を祝えばいいのです。

問6 傍線部(ウ)「誇示」の意味を次から一つ選びなさい。

- (8) ① 得意になって見せびらかすこと
② 誇らしげに話すこと
③ 傲慢な態度を取ること
④ 周囲に自慢すること
⑤ 気づかれるよう掲示すること

問7 傍線部(エ)「その事実」とはどういうことを指していますか。次から一つ選びなさい。

- (9) ① レストランが大勢の子どもで大混雑していたこと
② 子どもたちを対象にした食べ放題を時々行っていること
③ 母親の誕生日祝いをレストランで行ったこと
④ 善行を誇示することなく、淡々と行っていること
⑤ サッカーチームの子どもが来ていたこと

問8 傍線部(オ)「その日は得した気分になれる」とありますが、その理由を次から一つ選びなさい。

- (10) ① レストランの料理がすばらしかったから。
② すばらしい出来事に出会い、喜びを得ることができたから。
③ いろいろな経営者がいるのだということを知ることができたから。
④ 家族の誕生日をレストランで祝うことができたから。
⑤ レストランが食べ放題だったから。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公奥山チカは、夫を交通事故で亡くし、現在は清掃員として千駄ヶ谷（東京）の将棋会館で働いている。大阪旅行に行った際、関西将棋会館に立ち寄ると、成り行きからそこに来ている子どもと将棋を指すことになる。

チカは五十数年ぶりで盤にむかった。うれしかったのは、父が教えてくれた棒銀戦法をすっかりおぼえていたことだ。対戦相手は5〜6歳のこどもから、10歳くらいの子までいろいろで、チカは勝ったり負けたりした。

お昼は1階のレストランでランチセットを食べた。おかずはヒレカツとエビフライ、ご飯と味噌汁もおいしかった。千駄ヶ谷の将棋会館にもこうした店があればいいのと思ったが、作業着姿でレストランに入るのは気が引ける気もした。

食べ終わってぼんやりしていると、制服姿の中学生たちが7〜8人入ってきた。東京の奨励会^{*}員がつけているのと同じ名札をつけている。

（上の階では、奨励会の例会をやっているんだね）

快勝したらしく、**A** 話す子もいれば、離れた席で **B** している子もいて、「がんばれ、がんばれ」とチカは胸のうちでエールを送った。

2階の道場に戻ると、150はある盤は全部埋まっていた。もう十分指したし、通天閣や大阪城に行こうかとも思ったが、チカは壁際の椅子にすわって対局がつくのを待った。

ようやく名前を呼ばれて、チカは5歳くらいの男の子とむき合って椅子にすわった。相変わらず棒銀で攻めていると、午前中に対戦した阪神タイガースの野球帽をかぶった10歳くらいの男の子が横から話しかけてきた。

「おばあちゃん、棒銀しか知らへんの？」

「うん、知らないよ」

チカは盤面を見たまま答えた。いくら無口なチカでも、こども相手に黙^①っているのはかわいそうだと思ったからだ。

「棒銀以外もおぼえたらええやん。中飛車^{**}とか、四間飛車^{**}とか」

相手の子が、と金^{**}をつくった。予想していた手だが、受けるのが難しい。チカは早めに玉^{ぎよく}を逃がした。これで、すぐには詰まされない。

「この歳で、新しい戦法をおぼえるのは大変さ」

チカはぶっきら棒に言った。

「でも、そのほうが強くなれるんとかうか」

「へえ、こんなおばあちゃんでも、まだ強くなれるのかい」

「うん。さっきだって、ヒヤリとさせられたもん」

そう言われてチカが喜んでいると、受付の青年がやって来て小声で注意した。

「木下くん、対局中のひとに話しかけちゃいけないよ」

「だって、手は教えてへんし」

「それでもダメだって、先週も言っただろ」

「わかりました。ごめんなさい」

チカは大阪で暮らす計画はやめにした。東京で働きながら、年に一度か二度大阪に来て、ここ関西将棋会館の道場で将棋を指そう。そのほうが楽しめる。

チカは将棋の手ほどきをしてくれた父に感謝していた。母にも、夫にも、兄にさえも感謝していた。清掃員になっていなければ、今日という日は来なかったからだ。

そこから将棋は激しい攻め合いになった。お互いが一手指す^①ごとにセイ^②が変わるので、必死になって読まなければならない。

（さあ、これならどうだ！）

チカが考えに考えて指した勝負手を見事にふせがれて、そのあとはあざやかにウチ取られた。

「はい、負けました」

チカが礼をすると、相手の男の子は「ありがとうございました」ときちんと行って礼をした。

「こちらこそ、ありがとうございました」

駒を片付けながら、チカはいつか千駄ヶ谷の将棋会館の道場でも将棋を

指してみようと思った。10年も自分がソウジし続けてきた場所で対局をしたら、どんな気持ちになるのだろう。そのときのために、もっと腕をミカかなければならない。

「そうだね。坊やの言うとおりに、棒銀のほかにもうひとつ戦法をおぼえようかね」

チカが言うと、ずっとそばで見えていた木下君がうれしそうにうなずいた。

ちょうど午後3時で、きりがいいと思い、チカは帰ることにした。

「ありがとうございます」

受付の青年に対局カードを渡し、チカはお礼を言った。

「たくさん指されましたね。6勝3敗で、3つの勝ち越しです」

青年が〈級位〉の欄にボールペンで「8」と書いた。

「では、奥山チカさんを8級にニンテイします。東京にお住まいとのことですので、たびたびこちらに来るのは難しいでしょうが、大阪におこしの際は、ぜひまたおいでください」

みんなに聞こえるような声で言ってくれたので、チカと対局したこともたちから拍手がおきた。年配の男性は20人ほど来ているが、年配の女性はチカだけだった。

「ありがとうございます。いつかまた参ります」

口下手なりに精一杯の挨拶をして、チカはお辞儀をした。

ドアを出たところで、ひと息ついていると、誰かが階段をのぼってくる。ふと顔をむけたチカは驚いた。詰襟の制服を着て、胸に名札をつけた奨励会員は、残したお弁当を捨てにきた男の子とそっくりだったからだ。

「えっ」

思わず声が出てしまい、むこうもこっちをまじまじと見ている。

「あの、ひょっとして、千駄ヶ谷の将棋会館の……」

あのときと同じまじめな顔で尋ねられて、チカはうなずいた。

「ぼく、父の仕事の関係で3年前に大阪に引っ越して、それからはこっちの将棋会館に通っているんです」

背が伸びて、大人びていても、素直でやさしいところはそのままだ。

「奨励会試験には、3年前に合格しました。いまは1級です」

まわりを気にしてか、少し声を落として教えてくれて、チカはますますうれしくなった。

「今日は、勝ったの？」

聞いてしまってから、チカは悪かったと思った。

「勝ち、負けで、1勝1敗です。2局目が長い将棋になって、そのうえ逆転負けをくらったので、3局目の前に外の空気を吸ってきたんです。」

そう話す男の子は、もちろん泣きはらした顔などしていなかった。

「あのね、これ」

清水の舞台から飛び降りる気持ちで、チカは今日の対戦表を差し出した。

「奥山チカさん、67歳。8級」

そう読みあげた奨励会1級の男の子は、自分が大事なことを忘れていたのによく気づいた。

「ごめんなさい。ぼくは大辻弓彦」と言います。中学2年生です。4月からは中学3年生」

大辻君が、胸の名札をよく見えるようにむけてくれた。

「ありがとうございます。わたしはいまも、千駄ヶ谷の将棋会館で清掃員をしているの。今日は旅行で大阪に来て、見物のつもりで寄ってみました……」

日ごろの無口がうそのように、チカは五十数年ぶりで将棋を指すことになったいきさつを話した。弓彦君は、三段になったら、東京の将棋会館でも対局があると教えてくれた。

「さようなら」

詰襟姿の中学生は礼儀正しくお辞儀をして、階段をのぼっていった。研修会は午前と午後2局ずつ、計4局指すが、奨励会は午前に1局、午後2局だということをチカは初めて知った。

将棋界のことに詳しくなりたい。将棋も強くなりたいと、チカは思った。

(押入れの奥を探せば、おとうさんが使っていた盤と駒が見つかるかもしれない。見つからなければ、一番安い駒と盤を買って、将棋の勉強をしよう)

帰りの夜行バスが、なんぼのターミナルを出発するのは、あすの午後10時だ。あと丸一日と7時間も大阪にいられる。旅行も存分に楽しむつもりでいるが、チカは東京に戻ってからの張りのある生活を想像して、うれしくてしかたがなかった。

『駒音高く』 佐川 光晴

(注) ○ 奨励会⇨日本将棋連盟のプロ棋士養成機関

○ 棒銀、中飛車、四間飛車⇨将棋の戦法

○ と金⇨(駒を裏返して「と」と書いてある駒をつかうところから)将棋で、歩(ふ)が敵陣の三段目いらないに入って成ったもの。金将と同じ働き。

○ 以前、将棋会館で研修会の対局があった日、負けてお弁当も食べられず捨てにきた男の子と同一人物であった。

○ 研修会⇨奨励会の下部組織

問1 傍線部(1)～(5)の漢字について、傍線部に相当する漢字を含むものを後の選択肢から一つずつ選びなさい。

(11) (1) ケイセイが変わる

① 10月にはカイセイの日が多い

③ セイギョ装置の開発をする

⑤ セイユウにあこがれる

(12) (2) ウち取られた

① ケントウの余地がある

③ プレゼント企画にトウセンした

⑤ 春のトウライを告げる

(13) (3) ソウジし続けてきた

① ジョリユウ棋士の活躍が目立つ

③ 障害物をジョキョする

⑤ 被災者をエンジョする

(14) (4) 腕をミガク

① 全身マスイをかける

③ ケンマ剤を使う

⑤ マジメな人

(15) (5) ニンテイする

① テイサイが悪い

③ シテイ関係を結ぶ

⑤ アンテイした生活

問2 空欄A・Bに入る語の組み合わせとして、適当なものを次から一つ選びなさい。

(16) (1) A 浮かれて

② A 落ち着いて

③ A おどけて

④ A ふざけて

⑤ A 浮かれて

(3) B 落ち着いて

(2) B ゆっくり

(4) B のんびり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

(2) B しょうぼり

(4) B しょうぼり

問3 傍線部⑦「盤面を見たまま答えた。」とありますが、その時の気持ちを説明したものとして適当なものを次から一つ選びなさい。

- (17)
- ① 対局中だからなるべく相手にしないようにしようと思った。
 - ② 集中している時に話しかけられて迷惑だと思った。
 - ③ 失礼なことにも腹を立てていた。
 - ④ こどもを無視するのは悪いと思った。
 - ⑤ とりあえず返事をして、後で話をしようと思った。

問4 傍線部①「手」の意味としてふさわしいものを次から一つ選びなさい。

- (18)
- ① 手間
 - ② 手数
 - ③ 方法
 - ④ 腕前
 - ⑤ 仕事

問5 傍線部⑨「うれしそうにうなずいた」とありますが、その理由を次から一つ選びなさい。

- (19)
- ① 自分のアドバイスが受け入れられたから。
 - ② チカが新しい戦法を覚えてくれたから。
 - ③ 自分が教えてあげられることがあるから。
 - ④ 自分がチカに勝つことができたから。
 - ⑤ 注意されて気落ちしていたのをなぐさめてもらったから。

問6 傍線部⑤「清水の舞台から飛び降りる」とはどういう意味ですか。適当なものを次から一つ選びなさい。

- (20)
- ① 初めてのことに挑戦する。
 - ② 思い切った大きな決断を下すこと。
 - ③ 思いついたことをすぐ行動に移す。
 - ④ 試行錯誤を繰り返して完成する。
 - ⑤ 準備運動としてとりあえずやってみる。

問7 傍線部④「大事なことを忘れている」の説明として適当なものを次から一つ選びなさい。

- (21)
- ① 研修会の対局のことを説明していなかったということ。
 - ② 名札がよく見えるようにしていなかったこと。
 - ③ 今日の対局結果について説明していなかったこと。
 - ④ 東京の将棋会館でも対局があるということ。
 - ⑤ まだ自分の名前を名乗っていなかったこと。

問8 傍線部⑩「東京に戻ってからの張りのある生活を想像して、うれしくてしかたがなかった。」時の気持ちとしてふさわしいものを次から一つ選びなさい。

- (22)
- ① いつか千駄ヶ谷の将棋会館で将棋を指すために腕をみがき、将棋界のことにも詳しくなりたい。
 - ② もっと将棋界のことに詳しくなり、将棋の腕もあげて、関西将棋会館で将棋を指してみたい。
 - ③ 将棋の手ほどきをしてくれた父に感謝し、新しい戦法も覚えたい。
 - ④ 思いがけず大辻君に再会することができ、また大阪で会えるかもしれないと思うとうれしくてしかたがない。
 - ⑤ これからは大阪で暮らし、腕をみがいて将棋会館で将棋を指してみたい。

問9 この文章の特徴として適切なものを次から一つ選びなさい。

- (23)
- ① 将棋の魅力、勝負の厳しさを主題に、主人公の心の動きを繊細に表現している。
 - ② 主人公である清掃員の女性を通して、人と人との心の触れ合いを軽妙な筆致で描いている。
 - ③ 比喩を多用し、臨場感あふれる表現で読者をひきつけ、登場人物それぞれの成長を描いたものである。

④ 主人公と父親との絆を中心に、家族愛を主題として描いたものである。

⑤ 会話を多く用い、それぞれの人物の心の動きと成長していく様子をていねいに描いたものである。

③ 次の漢文（書き下し文）を読んで、後の問いに答えなさい。
（本文の……左側は現代語訳です。）

螢雪の功

晋しんの車胤しゃいん、幼こにして恭勤博覧なり。家貧しくして常には油を得ず。

幼こいときからまじめに勉学に努め、
広く書物を読んで博識であった。
いつも油が手に入る
わけではなかった

夏月には練囊れんなうを以つて数十の螢火を盛り、書を照らして之を読み、
夏には練絹の袋に数十匹の螢を入れて、

B

夜を以つて日に繼ぐ。後、官は尚書郎しやうじやうに至る。

後に、官職は尚書郎にまでなった

晋の孫康そんこうは、少くして清介、交遊は雑ならず。

若い時から潔癖な人で、

家貧しくして油無し。嘗て映雪読書。

雪の明かりに照らして本を読んだ

後、**I**は御史大夫しに至る。

『晋書』より

※1 尚書郎しやうじやうは文書をつかさどる役人
※2 御史大夫しは官吏の罪を正す役人

問1 傍線部A「之」が指しているものを、次から一つ選びなさい。

- (24) ① 油 ② 書 ③ 螢 ④ 雪 ⑤ 夏

問2 傍線部B「夜を以つて日に繼ぐ」の意味としてふさわしいものを次から一つ選びなさい。

- (25) ① 昼間だけ勉強した。 ② 夜になってから勉強した。

- ③ 昼も夜も勉強した。 ④ 一晩中勉強した。

- ⑤ 一日も休まず勉強した。

問3 傍線部C「交遊は雑ならず」の現代語訳として、適当なものを次から一つ選びなさい。

- (26) ① だれとでもすぐ親しくなった。

- ② 周囲のだれよりも友人が多かった。

- ③ 交際する友人も慎重に選んでいた。

- ④ 一人も友人がいなかった。

- ⑤ 幼なじみの数人とだけ交際した。

問4 傍線部D「映雪読書」を「雪に映じて書を読む」のように読める漢文を次から一つ選びなさい。

- (27) ① 映雪ジテニ読書ム ② 映雪ジテニ読書ム

- ③ 映雪ジテニ読書ム ④ 映雪ジテニ読書ム

- ⑤ 映雪ジテニ読書ム

問5 空欄Iに入る語を次から一つ選びなさい。

- (28) ① 恭 ② 勤 ③ 官 ④ 尚 ⑤ 孫

問6 この話から「螢雪の功」という故事成語ができましたが、その意味として適当なものを次から選びなさい。

- (29) ① 苦勞をしなければ成功できないということ。
② 苦勞して勉學に励み、成果をあげるということ。
③ 家がますます明かりは手に入れることができるということ。
④ 自然を大切にしなければならぬということ。
⑤ 真面目に勉學に励めば出世できるということ。

4 次の文の空欄に入る語として最も適当なものを、一つずつ選びなさい。

(30) この作文はまだまだ [] の余地があります。

- ① 推敲 ② 助長 ③ 蛇足
④ 圧巻 ⑤ 杜撰

(31) 人の意見は [] だ。

- ① 一喜一憂 ② 異口同音 ③ 我田引水
④ 千差万別 ⑤ 言語道断

(32) [] の末、ようやく完成した。

- ① 温故知新 ② 以心伝心 ③ 悪戦苦闘
④ 半信半疑 ⑤ 五里霧中

(33) [] で事業の改革に臨む。

- ① 烏合の衆 ② 漁夫の利 ③ 一炊の夢
④ 他山の石 ⑤ 背水の陣

(34) [] の精神を尊重する。

- ① 独立独歩 ② 付和雷同 ③ 自業自得
④ 不即不離 ⑤ 一長一短

5 次の各語の類義語として適当なものを、それぞれ一つずつ選びなさい。

- (35) 無事 ① 無難 ② 健全 ③ 安全 ④ 便利 ⑤ 危険
(36) 了解 ① 解説 ② 説得 ③ 拒絶 ④ 納得 ⑤ 賛成
(37) 動機 ① 結果 ② 原則 ③ 原因 ④ 起源 ⑤ 発生
(38) 貢献 ① 寄付 ② 寄与 ③ 献身 ④ 献立 ⑤ 供与

6 次の言葉の基本形と尊敬語の組み合わせとして、正しくないものを選びなさい。

- (39) ① 話す……おっしゃる ② 来る……いらっしゃる
③ 与える……くださる ④ 食べる……めしあがる
⑤ する……いたす

7 次の敬語表現の中で、正しいものを一つ選びなさい。

- (40) ① 校長先生ががんばれとおっしゃった。
② 父が、そちらへ行きます。
③ 社長がお帰りになられる。
④ 私は三時に参られます。
⑤ どうぞ冷めないうちにいただいでください。

